

岩坂将充（同志社大学高等研究教育機構准教授・計画研究 A01 分担者）

報告題 Political Marginalization in Turkey: Drawing and Crossing a Border between Inclusion and Exclusion（Political Change and Migration from the Middle East: Crossing Borders and Political Marginalization パネルでの報告）

第 25 回 IPSA World Congress（オーストラリア・ブリスベン）にて、パネル“Political Change and Migration from the Middle East: Crossing Borders and Political Marginalization”のうちの一報告として、“Political Marginalization in Turkey: Drawing and Crossing a Border between Inclusion and Exclusion”というタイトルで報告をおこなった。

報告では、トルコ政府のクルド問題への対応を政治的（非軍事的）アプローチと軍事的アプローチに大別したうえで、前者を **political inclusion**、後者を **political exclusion** ととらえ、前者を採用したオザル政権とエルドアン政権の比較分析から、それが選択された要因ならびに必要な背景を明らかにした。主要な要因としては、選挙での勝利に向けたクルド票の獲得を、必要となる背景としては、民族・国境を超えるムスリム意識や、当該問題における軍との主導権争いの存在を指摘した。また、エルドアン政権が 2015 年に政治的アプローチを事実上放棄した要因についても、こうした要因・背景からの説明をおこなった。ここでは、政治的アプローチによるクルド票獲得が困難な状況となっていたこと、そして文民優位の政軍関係を確立により政府が軍事的アプローチを主体的に選択可能であったことを、要因・背景として挙げた。質疑応答では、ここで取り上げた 2 つの政権以外の政治的アプローチや、政軍関係とアプローチの変化に関する質問があった。

パネルは極めて限られた時間であったが、聴衆からは終了後にも質問や助言を受けるとともに、新たなネットワークの構築もすすめることができ、今後の研究の発展に役立てることができた。また、自身が聴衆として関連パネルに出席したことでも、同様の効果を得ることができたと考える。パネル数が多く、スケジュールの都合で参加がかなわなかったものもあったが、世界各国のさまざまな研究者と直接かつ容易に意見交換ができる機会として、本国際学会への参加は非常に有意義なものであった。